

1970. 9.24



No. 140

9月号

壬生町政だより

住民登録人口

昭和45年9月1日現在	対前月比
総人口 25,927人	119人増
男 12,824人	62人↑
女 13,103人	57人↑
世帯数 5,611世帯	34世帯増

発行所 桜木県壬生町役場

(毎月24日発行)

昭和45年9月30日第三種郵便物認可

一部 5円00銭



もっと長生きしてね

最高令者は98歳の鈴木ヨシさん

9月15日は、おとしよりに感謝し、長寿を祝う夕敬老の日々
町では、中央公民館で1,500人のおとしよりと来客を招いて盛大に敬老会が
行なわれました。

この日、最高年令者の鈴木ヨシさん（98歳、下種葉）をはじめとし、90歳
以上が19人、80歳以上が278人、70歳以上が1,049人、合計1,346人のおとし
よりを招きました。

なかでも90歳以上のおとしよりには、かけふとんなどの記念品が町長より
贈られ、また80歳以上の方には町から敬老年金が支給されました。

1,346人のおとしよりを招いた会場では、民謡や踊り、コラスなど、盛
り沢山の催しが行なわれて、おとしよりを一日楽しく慰めました。

10月の納税

お忘れなく

町県民税 第3期分
国保税 第4期分

お知らせ



乳児検診

昭和四十四年十月一日以降に生まれたお子さん。十月二十七日、二十八日午後一時三十分(二時三十分)南大飼公民館で該当する地域は、小野口北林、上田、中泉、助谷、助谷原、国谷(国谷)、国谷(国谷)、中央公民館。

○と き 十月二十九日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 十月十四日

○と き 二月二十一日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十二日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十三日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十四日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十五日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十六日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十七日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十八日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十九日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月三十日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月三十一日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十一日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十二日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十三日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十四日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十五日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十六日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十七日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十八日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十九日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月三十日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月三十一日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十一日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十二日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十三日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十四日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十五日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十六日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十七日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十八日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月二十九日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月三十日 午後一時三十分(二時三十分)

○と き 二月三十一日 午後一時三十分(二時三十分)

〇と き 二月二十一日 中央公民館

至玉町公民館

母子センター

正生甲一、一八八番地和久井シ

ノさん(八十五歳)は、正生小学

校へ、雑誌二〇枚を寄付されまし

た。

和久井さんは、両眼失明の身で

ありながら、生徒たちのために

寄付されたもので、先生はじめ生

徒たちからたいへん喜ばれてい

ます。

該当者は、九月二十日までに申

し込みました。

正生甲一、一八八番地和久井シ

ノさん(八十五歳)は、正生小学

校へ、雑誌二〇枚を寄付されまし

た。

和久井さんは、両眼失明の身で

ありながら、生徒たちのために

寄付されたもので、先生はじめ生

徒たちからたいへん喜ばれてい

ます。

該当者は、九月二十日までに申

し込みました。

正生甲一、一八八番地和久井シ

ノさん(八十五歳)は、正生小学

校へ、雑誌二〇枚を寄付されまし

た。

和久井さんは、両眼失明の身で

ありながら、生徒たちのために

寄付されたもので、先生はじめ生

徒たちからたいへん喜ばれてい

ます。

該当者は、九月二十日までに申

し込みました。

正生甲一、一八八番地和久井シ

ノさん(八十五歳)は、正生小学

校へ、雑誌二〇枚を寄付されまし

た。

和久井さんは、九月二十日までに申

し込みました。

正生甲一、一八八番地和久井シ

ノさん(八十五歳)は、正生小学

年、役および後には、藤原氏が都で榮華を極めている

間、地方では民衆疲弊、盜賊横行

とも天下の治安

は、これ先にして平将門の乱

後にしては前九

年の役および後には、藤原氏が都で榮華を極めている

間、地方では民衆疲弊、盜賊横行

とも天下の治安

は、公家の手で

と亂れていた。反乱のひどいこと

は、この功によって平将門の乱

征討軍は度々苦況に陥ったが、

清原武則の援を得て、漸く九年の

長年月を要して平定した。武則は

その武功によって、鎌倉府將軍に

任せられた。

平安時代の伝説(二)



前九年の役とは、奥羽地方によつて勢力を振い、朝命に従ひぬ阿

部禪時とその子貞、宗任の反乱

でこれが征討に命ぜられたのが、

源義義、義家の父子である。

征討軍は度々苦況に陥ったが、

清原武則の援を得て、漸く九年の

長年月を要して平定した。武則は

その武功によって、鎌倉府將軍に

任せられた。

この両

役には、

下野の壮

丁も多く

従軍し、

大橋格(七月一日付)

▽退職(五月三十日付)

桑川義代子(総務課)

▽七月三十日付

石川一子(藤井少)

▽八月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽九月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽十月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽十一月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽十二月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽一月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽二月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽三月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

養家が征討の途中、上締葉で休

み道端の松に母衣(ほろ)をかけ

て、息をついだ。これが母

衣の由来である。

従軍し、

▽七月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽八月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽九月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽十月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽十一月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽十二月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽一月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽二月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽三月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽四月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽五月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽六月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽七月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽八月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

▽九月三十日付

藤井小枝長(福田幸綱)

自らは天皇氣ouriになつて反亂を起した。

氏仁の時代となるのである。

先ず將門が天慶景雲の時に起

て、息をついだ。これが母

衣の由来である。

中、平将門が天慶景雲の時に起

て、息をついだ。これが母

衣の由来である。

母衣(ほろ)をかけた有

名の如く紅白黄紫と色とりどり

で、義家のつけたものは、どんな

ものかわからぬが、征途の戦

様は誠に美しいものであつたろう

が、源氏八幡太郎義家は日頃

厚く八幡宮を尊び、この度の戰

に際しては、義家の恩田の八幡宮に参拝し、

戰勝を祈願したとい。(福田)